

(p.p.43)

2つの話し言葉を使う地域社会間の体系上の違いが2つの方言、あるいは2つの異なった言語を反映したものであるのかどうか決めるのはいつも容易、というわけではない。経験則から定義すると、こう用いられるかもしれない。もし方言が相互に理解不能になるならば、ある方言の集団に属する話者はもはや他の方言の集団を理解することはできない。これらの「方言」は異なる言語になる。しかし「相互に理解可能」を定義することそれ自身は難しい作業である。Dane人はDanishを話し、ノルウェー人はノルウェー語を話し、スウェーデン語を話すスウェーデン人は互いに話を交わすことができる。しかしDanishとノルウェー語とスウェーデン語は独立した政府を持つ別々の国で話され、それらの語法に原則的な違いがあるため、別々の言語と考えられる。

しかし「dialect」は定義されており、確かなことは体系上の変化が、ウィリアムブライトに指摘されているように、言語社会内で発生する。(以下、彼の文章)

任意の認識できる話し言葉を使う地域社会内部において相違は通常言語階層のすべてのレベル、つまり音韻、文法、語彙に見受けられる。いくつかの相違は地理的な場所と相関がある。話しかけられた人または話された内容の素性に左右されるかもしれないものもある。話し手の素性との相関があるものもあるかもしれない。これらは男性と女性の話の違いも含有している。言語上の相違はまた話し手の社会的な地位や他の社会的、文化的脈絡に存在する事実と相関があるのかもしれない。

ボストン訛りを持つ人がいて、南部訛りを持つ人がいて、ブルックリン訛りを持つ人がいて、中世ヨーロッパ